

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072500483		
法人名	株式会社 松寿		
事業所名	グループホーム 松寿苑		
所在地	福岡県大川市大字本木室1005 - 8 (電話) 0944 - 86 - 2437		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 18 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な生活が出来る雰囲気作りに努めています。利用者の残存機能を活かした生活を送っていただけるよう支援しています。食事やイベント時のメニューを利用者と一緒に決めたり、手伝ってもらったりしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周囲は水路、田畑が広がり高層建物はなく静かな環境にある。ユニットは民家を改修した和棟と洋棟に分かれている。食事は三食とも職員が調理し、近隣農家から直接提供される野菜も使って旬の滋味を楽しんでいる。受診送迎は施設車両で職員が行うことが多く、医療機関との連携がスムーズに行えるよう努めている。受診後、事業所まで戻る際には、利用者自宅や畑が見える道を通るようにしている。職員は日頃から利用者ができる生活動作がいつまでも継続できるようケア方法の工夫に努めている。職員の家庭環境により夜勤回数の制限やシフト調整を行うなど働きやすい職場環境が構築されている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングや玄関に掲示し、スタッフ一人ひとりが常に意識して行動できるように努めている。	職員は申し送り時や全体会議時に理念に基づいてケアが実践できているのか日々の関わり方や記録などから振り返り確認している。また、理念は玄関やフロアに掲示され、口腔体操時には利用者も職員と一緒に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ前のような交流が出来ていない。	コロナ禍の影響から地域行事などでの交流は行われていない。地域住民からの野菜、魚のおすそ分けがあり、散歩中に挨拶をするなどして交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナ前のような活動は出来てない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より二か月に一度開催し会議での意見を取り入れサービスの向上に努めている。	会議は利用者、家族、地域住民、行政職員、福祉事業関係者が参加し、2か月に1回、対面で実施している。会議では利用者の状況、活動状況、身体拘束をしないケアや苦情・要望、研修報告、改善の取り組み、地域交流の実施状況などを報告し出された意見を協議している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事、困った事がある時は相談、連絡している。	管理者は行政と入居に関する相談や研修内容に関する事、BCP作成に関する相談を日常的に行っている。また、認知症サポーター養成講座に関するメンバーに登録し協力関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止や高齢者虐待防止について、研修に参加したり勉強会を行い、スタッフの意識向上に努めている。	身体拘束をしないケアの実践のために委員会活動や研修会を開催して、知識習得や意見交換を行っている。転倒リスク軽減のために、車いすに滑り止めマットを敷いたりベッドから布団に変えたりしている。和棟の玄関や庭への出入口は日中も常時施錠している状態であり、外に出る意向があれば職員が速やかに対応している。	全職員で様々なリスクを想定し、安全な生活と開放的な日常が確保できないか話し合い、玄関の開錠を実践できるよう期待したい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり社内勉強会を行い、スタッフ一人ひとりの意識向上に努め、不振な点がある場合には注意・指導を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり社内勉強会を行い、理解出来るように努めている。	成年後見制度に関する説明は、管理者がパンフレットを用いて、問い合わせ時や来訪時に行っている。管理者が制度に関する外部研修に参加し、研修資料を用いて職員へ伝達研修をして知識を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、家族が面会や支払いに来られた時に意見・要望を聞くようにしている。	職員は利用者や家族からの要望で孫の野球試合の観戦や買い物、受診、葬儀参列に対して職員が事業所車両を使い送迎協力した。苦情受付方法の掲示や説明を家族へ行い、職員も外部研修会に参加するなど外部からの意見を大切にしている運営を目指している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日の申し送りの時に意見交換を行っている。	管理者は、全体会議や個別に職員から意見を聴取し働きやすい職場環境作りに努めている。勤務時間の変更や食事を弁当箱に入れ外で食べたり、レクリエーション企画や事故防止策などの提案もあり実践している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を把握し、向上心を持って働けるような状況・環境・シフト調整等に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関して年齢・性別の基準はなく、各職員の長所が発揮できるようにしている。	無資格者の採用や学生のアルバイトも雇い入れしている。子育て等の家庭環境に配慮して夜勤回数やシフト調整を行っており、働きやすい環境作りに努めている。自己研鑽のきっかけとなるよう外部研修参加や資格取得をすすめている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	面接・採用時に説明し、言葉使いや声掛け等が不適切な時は、その都度注意し話し合うようにしている。また、社内勉強会も行っている。	管理者は高齢者、障がい者の虐待防止と権利擁護について受講し職員へ伝達している。その他、内部研修で接遇や不適切ケアについて学び、尊厳を守るケアを目指している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じ研修の参加を募っている。研修に参加した職員に研修報告書を作成してもらい、他の職員にも報告するようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加したり当苑の運営推進会議に参加してもらい意見交換等を行い交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人や家族等と出来るだけコミュニケーションをとり、個々の思いを汲み取り信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話・LINE等でコミュニケーションを多く取ることにより要望や不安な事に耳を傾け、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人や家族と話し合ったり、入居者が以前いた病院や施設の職員からも情報をもらい、入居者にとってより良いサービスを見つけられるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を共にするなかで、家族のような関係を築いていけるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・支払い時には必ず近況報告を行う。また、面会が難しい家族には電話やLINE等で近況報告を行い、無理がないような協力を仰いでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のコミュニケーションの中に個々の馴染みのあるワード等を取り入れる事により関係が途切れないように支援に努めている。	利用者が入居前に長年関わりを持った民生委員や美容師が事業所に訪問し交流が続いている。また、事業所車両で地域のスーパーへの買い物に行ったり、受診の帰り道に自宅や畑の近くを意図的に通ったりしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々で過ごせる時間も大切にしながら、その時々個々の感情を汲み取りながら支援するようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談に来ていただけるように伝え、今までの関係を大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人とのコミュニケーションの中から希望や意向の把握に努めた、家族から情報を得て本人本位の支援を心掛けている。	入所時の聴き取りでどんな暮らしをしていたか情報収集を行っているが、入所後も毎月のユニット会議や毎日の申し送り時に、本人と日々接しているなかで、新しく判った事や家族に聴き取ったことなどを記録し情報共有している。職員は気付いたときにすぐ記載するよう心がけている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を残しスタッフ全員がめを通し、把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向や主治医・スタッフからの情報をもとに介護計画を作成している。	ケアマネジャーは毎月モニタリングすると同時に担当職員等から情報収集している。医療情報は往診時に聴き取りしている。家族の意向や意見は家族訪問時や電話で聴き取りしている。ケアマネジャーはそれらをまとめ、担当者会議でユニット職員全員で話し合い、計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、スタッフが目を通すようにしている。会議等で話し合いを行い情報の共有・実践・介護計画の見直し等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の要望を重視し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人から要望があれば支援出来るよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が往診してもらえる医療機関に依頼し主治医が付いている。定期ではない整形外科・眼科・泌尿器科などの通院は出来る限り家族にお願いしているが、ほとんどの家族が都合がつかないため職員が行っている。	入所以前からのかかりつけ医に家族の送迎で受診際は、医師への伝達事項を伝え、帰宅時には受診結果を聴き取っている。他科受診は、家族送迎としているが、事業所が代行する場合が多い。リフト車が必要な場合などは、利用者の移動支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡・相談できるようにしている。また、定期的に勉強会を行ってもらう。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には利用者の情報交換を行っている。また、往診を依頼している主治医とは常に情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いを行い、家族・入居者本人の要望がある場合は、家族・主治医と連携をとり支援している。	入所時に、利用者の医療ニーズが高まった場合の事業所の方針について説明し、同意を得ている。その際に、終末期の対応についても利用者・家族の要望を確認し、同意を得ている。終末期が始まったと判断した主治医が家族や関係者を招集し、利用者への対応について改めて確認している。その後も、家族の意向に変化があれば、それに応じて対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や当苑看護師に対処法を聞いているが全員が実践力を身に付けているとは言えない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練マニュアルを作成し、避難訓練を定期的に行っているが、地域との連携・協力体制は十分には築けてはいない。	防災マニュアル、感染防止マニュアルを整備している。備蓄品リストはBCP作成に合わせて整備予定にしている。ハザードマップ上は洪水の危険区域となっているため、消防署と協議し、水害時は事業所内での垂直非難を予定している。避難訓練は火災を想定し2度実施した。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いや行動に気を付けて入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	排泄、食事、入浴といった利用者の生活に関わる情報はタブレットに入力しており、第三者の目に触れないよう配慮している。個人情報やプライバシー保護については権利擁護研修と併せて毎年事業所内で研修している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の意思や気持ちを第一に考え本人に確認し強制せず自己決定が出来るように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースで過ごして頂きその時々状況に合わせて希望に添えるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の希望に添えるよう家族に衣類等を持ってきてもらえるようお願いしたり、購入しても良いか尋ね購入し支援している。定期的に訪問理容に来て頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等を出来る範囲でお願いしている。食べたい物を聞きメニューに反映させている。	食事は3食とも事業所で調理している。買い物した食材に合わせて献立を立てているが、その際利用者に希望を聞いている。台所が食堂から見えるため、職員が下ごしらえや調理をしていると、利用者から下ごしらえや味付けについて注文が出ることもある。時にはやらせて欲しいとの申し出もあり、一緒に調理している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分の摂取量をチェックし摂取量の把握に努め、水分摂取量の少ない利用者には口に合う飲み物を提供し、食事形態も個々にあった形態で提供できるよう努めている。また極端に食事量が少なく栄養状態が悪い利用者には主治医に相談し、栄養補助食品等の提供も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・うがい・義歯洗浄を行っている。拒否がある時は無理強いしない。また希望があれば訪問歯科や送迎付きの歯科往診も依頼している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し声掛け・誘導にて出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	トイレは広く、職員は個室の外で利用者を見守ることが出来る。立位の困難な利用者はオムツを使用しているが、その他の利用者は身体状況に応じた支援を行っており、トイレやポータブルトイレで排泄する生活を続けている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや果物・食物繊維の多い野菜等の摂取を心掛け、ラジオ体操や歩行訓練等を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、希望がある場合や便や尿で汚染された場合は、体調をみて入浴出来るようにしている。	ユニット毎に入浴日を決めているが、体調や気分が入浴日に入浴しなかった利用者への対応として、日曜日を含め、入浴日以外も入浴できる。職員は利用者の好みの湯温を把握しており、個別に湯温を調整している。使い慣れている入浴用品がある利用者は、入所後も使い続けている。入浴後の肌のケアも個別に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ使い慣れた寝具等を持ってきて頂き室温や布団や毛布等を調整し個々の習慣や体調に合わせて、気持ちよく休んでもらえるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録を残して全スタッフが服薬状況を把握できるようにしている。投薬表を作成したり、利用者個々の名前のついたラックに日付と名前のついた薬を入れ服薬前に声に出すことで誤認防止に努めている。また副作用や用法・用量については当苑看護師や提携の薬剤師に尋ねることもある。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品（酒・たばこ）は火事の恐れや服薬の関係で出してはいない。カラオケやぬり絵や気候が良ければ散歩等で気分転換を行っている。イベントの時にはノンアルコールビールやノンアルコールの梅酒や酎ハイ等を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や天候にもよるが、出来るだけ希望に添えるように努めている。	週に1～2日は散歩に出ている。受診で利用者と一緒に出出する時を外食の機会としている家族が多い。事業所が受診を代行する際は、外出の機会として回り道などしている。職員は週に2～3回食材の買い出しに行くが、その際、利用者に一緒に行かないか誘っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは家族より事務所で預かり、出納帳を作成し管理している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り支援している。事前に家族等の許可を得るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や貼り絵等をはり、YouTubeで懐メロ等を流し、楽しく過ごせるようにしている。	道路から玄関、玄関から室内へはスロープが整備されている。建物内の床は板張りで、廊下は広くとられている。壁には利用者が描いた塗り絵等の作品を飾っている。ユニットの1棟は2階建てになっており、階段には昇降機が取り付けられている。各棟の玄関前にはベンチや椅子が置かれており、寛ぎの場所の一つとなっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置き会話をしたり外を眺めて過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた馴染みの物を持ってきて頂くよう家族にお願いしている。お位牌等を持ってこられ、自室でお参りされていた利用者も居られた。	居室の床は、利用者の生活状況を鑑み、フローリング、カーペット、畳の部屋がある。また寝具も布団とベッドとなっている。入所時にはエアコンと、空気清浄機が用意されており、その他の生活用品は馴染みの物を持ち込んで良い。壁には利用者が製作した作品などが貼られ本人らしい部屋となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内の廊下に手すりを設置したり転倒リスクのある居室の床にクッション材を使用し骨折のリスク予防に努めている。必要に応じて立ち上がりやすいように居室に手すりを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できるようリビングや玄関に掲示しスタッフ一人ひとりが意識して行動できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ前のような交流が出来ていない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナ前のような活動は出来てない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より二か月に一度開催し会議での意見を取り入れサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当苑で分からない事、困った事がある時は相談、連絡している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止や高齢者虐待防止について、研修に参加したり勉強会を行い、スタッフの意識向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり社内勉強会を行い、スタッフ一人ひとりの意識向上に努め、不振な点がある場合には注意・指導を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり社内勉強会を行い、理解出来るように努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いたり、家族が面会や支払いに来られた時に意見・要望を聞くようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日の申し送りの時に意見交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を把握し、向上心を持って働けるような状況・環境・シフト調整等に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関して年齢・性別の基準はなく、各職員の長所が発揮できるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	面接・採用時に説明し、言葉使いや声掛け等が不適切な時は、その都度注意し話し合うようにしている。また、社内勉強会も行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じ研修の参加を募っている。研修に参加した職員に研修報告書を作成してもらい、他の職員にも報告するようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加したり当苑の運営推進会議に参加してもらい意見交換等を行い交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人や家族等と出来るだけコミュニケーションをとり、個々の思いを汲み取り信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話・LINE等でコミュニケーションを多く取ることにより要望や不安な事に耳を傾け、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人にとって何が一番良いか本人や家族と話し合い、より良い対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を一緒にする中で、家族のような関係を築いていけるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・支払い時には必ず近況報告を行う。また、面会が難しい家族には電話やLINE等で近況報告を行い、無理がないような協力を仰いでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のコミュニケーションの中に個々の馴染みのあるワード等を取り入れる事により関係が途切れないように支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り個々で過ごせる時間も大切にしながら、その時々感情を汲み取りながら支援するようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談に来ていただけるように伝え、今までの関係を大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の生活歴でどんな暮らしをしていたか等の情報収集を行い、入居後も会話や行動の中から生活習慣の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族又は以前利用されていた施設・医療機関から情報を入手し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を残しスタッフ全員がめを通し、把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向や主治医・スタッフからの情報をもとに介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、スタッフが目を通すようにしている。会議等で話し合いを行い情報の共有・実践・介護計画の見直し等を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の要望を重視し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人の残存機能を活かし、要望に対応出来るように支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が往診してもらえる医療機関に依頼し主治医が付いている。定期ではない整形外科・眼科・泌尿器科などの通院は出来る限り家族にお願いしているが、ほとんどの家族が都合がつかないため職員が行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡・相談できるようにしている。また、定期的に勉強会を行ってもらう。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には利用者の情報交換を行っている。また、往診を依頼している主治医とは常に情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いを行い、家族・入居者本人の要望がある場合は、家族・主治医と連携をとり支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や当苑看護師に対処法を聞いているが全員が実践力を身に付けているとは言えない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練マニュアルを作成し、避難訓練を定期的に行っているが、地域との連携・協力体制は十分には築けてはいない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや言葉使いや行動に気を付けて誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人に確認し、強制せず拒否がある時は無理強いせず自己決定が出来るように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースで過ごして頂きその時々状況に合わせて希望に添えるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の希望に添えるよう家族に衣類等を持ってきてもらえるようお願いしたり、購入しても良いか尋ね購入し支援している。定期的に訪問理容に来て頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等を出来る範囲でお願いしている。食べたい物を聞きメニューに反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分の摂取量をチェックし摂取量の把握に努め、水分摂取量の少ない利用者には口に合う飲み物を提供し、食事形態も個々にあった形態で提供できるよう努めている。また極端に食事量が少なく栄養状態が悪い利用者には主治医に相談し、栄養補助食品等の提供も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・うがい・義歯洗浄を行っている。拒否がある時は無理強いしない。また希望があれば訪問歯科や送迎付きの歯科往診も依頼している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し声掛け・誘導にて出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや果物・食物繊維の多い野菜等の摂取を心掛け歩行訓練等を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、希望がある場合や便や尿で汚染された場合は、体調をみて入浴出来るようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ使い慣れた寝具等を持ってきて頂き室温や布団や毛布等を調整し個々の習慣や体調に合わせて、気持ちよく休んでもらえるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録を残して全スタッフが服薬状況を把握できるようにしている。投薬表を作成したり、利用者個々の名前のついたラックに日付と名前のついた薬を入れ服薬前に声に出すことで誤認防止に努めている。また副作用や用法・用量については当苑看護師や提携の薬剤師に尋ねることもある。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品（酒・たばこ）は火事の恐れや服薬の関係で出してはいない。カラオケやぬり絵や気候が良ければ散歩等で気分転換を行っている。イベントの時にはノンアルコールビールやノンアルコールの梅酒や酎ハイ等を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や天候にもよるが、出来るだけ希望に添えるように努めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは家族より事務所で預かり、出納帳を作成し管理している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り支援している。事前に家族等の許可を得るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や利用者が塗られた塗り絵等をはり、季節に合わせた飾り物などで楽しく過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子とテーブルを置き会話をしたり外を眺めて過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた馴染みの物を持ってきて頂くよう家族にお願いしている。お位牌等を持ってこられ、自室でお参りされている利用者も居られる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内の廊下に手すり設けたり転倒リスクのある居室の床にクッション材を使用して骨折のリスク予防に努めている。必要に応じ立ち上がりやすいように居室に手すりを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない